



「地理総合」

専門科目を問わず、安心して使えるビジュアルな教科書

横浜国立大学教授 吉田 圭一郎

令和4年度より「地理総合」が必修科目として新設されます。本書は、それにあわせて実教出版が20年ぶりに作成した地理の教科書です。本書では、先生方や生徒の皆さんの新設科目に対する不安を少しでも軽減し、担当する教員が教えやすく、学習する生徒たちが着実に地理的な見方・考え方を踏まえた思考力・判断力を身に付けられるように、さまざまな工夫を取り入れています。

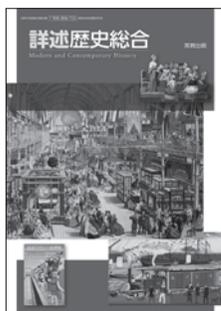
本書では学びのきっかけとなる「問い」を重視しました。見開き2ページの最初の問いでは学習目標を提示し、最後の「Try」にある問いでは、生徒が課題の発見や追究をしたり、生徒どうして課題の解決について話しあったりすることをうながしています。それらを通して、学習目標の問い→本文や資料での学び→発展的な問い→主体的・対話的で深い学び、という「問い」と「学び」がつながる学習活動ができるようにしました。

また、多面的・多角的な国際理解ができるように、現代世界をとらえる視点として5つの主題（自然環境、産業、宗教、国家・民族・言語、移民）を設定しました。世界の諸地域の学習では主題ごとにグループにまとめ、世界の多様な生活文化とのかかわりについての学びを深められる項目を設けています。こうした構成にすることで、主題を軸にした学習が展開できるようになっています。

地理的技能について本書では、さまざまな作業を通して学習します。特に、透過資料を用いて地理情報の収集や分析を実践することで、デジタル機器がなくても、地理情報システム（GIS）にかかわる技能を習得できるようにしています。

担当する教員の多様な専門性を授業に反映できる工夫もしました。世界の各地域の学習は歴史から始まっており、そのほかでも「歴史への旅」として関連する歴史的背景を取り上げました。また、「時事ノート」では公民科に関連する内容を紹介しています。こうした他科目との連携による広い視野の習得は、地球的課題の解決や持続可能な社会の実現に向けて主体的に取り組む力の育成に必要な不可欠なことでもあります。

そのほか、本書では生徒の気づきをうながす問いや主題を随所に盛り込んでいます。これは、生徒が見出した気づきを、教員や他の生徒と共有しながら学習を進めることで、地理的な見方・考え方をふまえた思考力や判断力を身に付けられるようにと意図したものです。また、気づきや疑問を解決していく学びは楽しく、現代世界をとらえる重要なまなごしの習得へとつながるものとも考えます。新たな教科の地理総合では、使いやすく、わかりやすく、楽しく学べる、そのための多くの創意工夫を凝らした本書を是非ご活用ください。



「詳述歴史総合」

探究科目につながる詳細な通史型の学習と「新しい学び」を両立させた教科書

東京大学・成城大学名誉教授 木畑 洋一

新型コロナウイルスの影響などのもと、これから先、私たちの生活はどうなっていくのか、世界はどうなっていくのか、といった問いかけが、さまざまな形でなされています。そのなかで改めて分かってくるのが、私たちが向かい合っている「現在」と不確かな「未来」の姿について考える指針を提供してくれる歴史の意味の大きさです。とりわけ、「現在」に直結する近現代の歴史は重要です。その際、近現代を通じて見られ、グローバル化が進むなかでますますはっきりしてきた、日本社会の動きが世界全体の動きに連動する様相に、とくに注意していく必要があります。

新たに創設された科目である歴史総合のために作られたこの教科書は、このような歴史の重要性を生徒たちに伝えるべく作られました。本書は、18世紀以降の近現代史を対象として、世界の変化と日本の変化を、両者の間の関連に常に留意しつつ、65の単元で分かりやすく論じています。

この教科書からは、近現代の世界と日本を歴史的に捉えるために必要な知識を身につけることができます。しかし、歴史に向かい合うには、もちろんそれだけでは十分ではありません。過去のさまざまな問題について私たちに教えてくれるさまざまな史料を読み解く力、すでにもっている知識や史料からえた知見をもとに歴史について考えて

いく力、そうした自分の考えをきちんと表現していく力、他の人々との交流のなかで自分の知識や考えを深めていく力なども、求められます。そのためこの教科書では、多様な史料や問いの提示、友人との討論の勧めなどに力を入れました。

歴史総合の教育に取り組まれる先生方には、世界史を専門とされる方、日本史を専門にされる方など、いろいろな方がいらっしゃると思います。この教科書では、すでに述べたように世界と日本の連動を重視しながらも、見開き2頁から成る各単元は主として世界史に関わる単元と主として日本史に関わる単元とに分かれており、世界史、日本史それぞれについて通史的に学んでいくことや、先生方の専門に応じて教える際の力点を変えていただくことが可能になるように組み立てられています。また多くの生徒たちは、この歴史総合を学んだ後、世界史探究もしくは日本史探究を学ぶこととなりますが、この教科書には、そのいずれの場合においても生徒たちが十分な予備知識をもって探求授業を受けることができるような内容が盛り込まれています。

新しい科目のための新しい教科書を作るため、私たち執筆者は激しい議論を積み重ねました。その成果であるこの教科書が最大限に活用されることを祈っています。



「歴史総合」

コンパクトな構成と豊富な史資料でわかりやすく学べる教科書

日本女子大学名誉教授 成田 龍一

2022年度から、「歴史総合」という新しい科目がはじまる。これまでの戦後の歴史教育の成果を踏まえたうえで、あらたな転回を促す科目となっている。「あらたな」といったとき、そのなかみは、A「歴史の学習のしかた」と、B「歴史の学習の内容」のふたつにまたがっている。Aは（新しい学習指導要領のもとで、他の科目にも共通するが）、生徒たち自身に「問い」を立てさせ、思考力・判断力・表現力を養い「総合」的に学ぶ、ということである。Bは、これまで「世界史」「日本史」と分けられていた歴史を、18世紀以降の近現代史を対象として、日本と世界について「総合」して学ぶということを内容としている。日本と世界を一体のものとして合わせ学ぶということによって、歴史の認識が深められることになる。なによりも、AとBとのねらいによって、歴史は暗記科目である、という思い込みから解き放ち、歴史を生き生きと学ぶということが意図されている。

すなわち、歴史を学ぶということは、考えながら歴史を学び、歴史の学びを現代（いま）に生かすということである。歴史の楽しさと重要性、歴史を学ぶことによって、現在の見え方がより深まることを知ることにある。そのために「問い」からはじまり、史料に接することをつうじて、歴史の考え方を学ぶ。これまで中学校で学んできた歴

史を基礎に、その学びを、より多面的・多角的に、思考力を深める方向にむかうことが「歴史総合」の科目ということとなる。

この精選版は、いくつかのねらいのもとに執筆した。要となるのは、生徒が興味と関心を惹く構成とすることである。そして、それを同時に、授業展開とむすびつけた教科書として工夫した。18世紀から授業を始めることの意味、また「近代化」「大衆化」「グローバル化」についての説明も、ていねいにおこなった。

また「歴史総合」のねらいである、生徒の「問い」をつくりだすヒントをちりばめてある。歴史の出来事に直接に接することが「問い」を誘発するであろうとの考えから、当時の証言などの文字史料をはじめ、絵画、グラフ、地図など史資料の多様性を意識し、豊富にそれを収録した。そのために精選版では、判型もワイド判としてある。本文でも、「問い」を誘発するような記述を心がけたほか、あちこちに「問い」の事例を記してある。

授業展開としては、歴史事項を教えつつ「問い」をふくらませ、あらたな「問い」へと導きながら、歴史事項を確認するということになるろう。それにふさわしい教科書として、この精選版は、多くの先生方と長い時間、協議を重ねてつくりあげた。



「詳述公共」

「倫理」「政治・経済」の学習もできる詳細な教科書

慶應義塾大学教授 柘植 尚則

新科目「公共」では、生徒が現代の課題について自ら考察したり、互いに議論したりすることが求められています。そこで、『詳述公共』では、様々な工夫を採ることになりました。

(1) まず、全体の構成に配慮しました。第1編「公共の扉」では、生徒は、課題について考察・議論する手がかりとなる多様な見方や考え方を学びます。そして、第2編「よりよい社会の形成に参加する私たち」では、個々の課題について学びながら、第1編で学んだ見方や考え方をを用いて、課題について実際に考察・議論します。さらに、第3編「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」では、課題を自ら発見・探究するための様々な技能を身に付けます。

(2) 次に、単元ごとに、学習内容について問う〈TRY!〉を用意しました。たとえば「よく生きること、また幸福に生きることとはどういうことなのか」「政治をよくするために、市民となすべきことは何か」「格差や貧困を解消するためにはどのような政策が求められるか」といった問いを立てることで、生徒が学習内容に対する理解を深め、主体的に考えることができるようにしました。

(3) また、思考実験や倫理的な課題を通して考える力を身に付ける〈Trial〉を設けました。

たとえば「大規模開発はおこなうべきか」「環境問題はなぜ生じるのか」「多数決の長所と短所とは」といった難問を取り上げ、それに対する様々な見方や考え方を示すことで、生徒が多面的・多角的に考察することができるようにしました。

(4) さらに、資料読解を通じて現実社会の課題を考える〈Active〉を設けました。本文ページでも、原典資料や統計資料を数多く載せていますが、それらに加えて、たとえば「男女共同参画社会を実現するには」「財政再建をどのように進めるべきか」「SDGsの実現に向けて」といったテーマに関して、より詳細な資料を示すことで、生徒が現代の課題を正しく理解し、深く考察することができるようにしました。

(5) そして、〈Trial〉〈Active〉では、先生を導き手として、生徒が主体的に対話をするという形を採ることで、どのように考察・議論するのか、生徒が具体的に理解できるようにしました。

ほかにも、政治の仕組みや経済の理論を分かりやすく解説した〈Q & A〉、最新の話題や動向を詳しく解説した〈Seminar〉を用意しました。こうした工夫により、生徒にとって、現代の課題について自ら考察し、互いに議論することがより身近になると考えています。



「公共」

易しそうだけど深い。考えることを進める教科書。

東京都立戸山高等学校教諭 高橋 朝子

生徒が考えながら読める、協働して作業できる、
沢山の資料から課題を追究できる、教科書である。

【特徴その1】 思考実験にTry！

医療の進歩により注目されるようになった生命倫理の問題や、公正や合意に必要なことを、思考実験で学ぶ特集ページ「Trial」が6テーマある。自らの意見をまとめるだけでなく、話し合うことによってさまざまな考え方に触れることができる。

【特徴その2】 資料から課題を読み解く！

例えば財政再建について、税金の推移や国際比較、租税負担率や歳出項目などのグラフをもとに、政策の優先性を考えるのに、会話文がヒントとなっているのでわかりやすい。このような「Active」が9テーマある。

【特徴その3】 社会で見聞きする、ふとした疑問を解消！

推定無罪の原則やデフレの影響、円高って何など日常生活での疑問に答える「なるほどQ & A」を18項目、求人票の見方など実生活で役立つ「現代社会ナビ」を15項目とりあげている。

【特徴その4】 最新の時事がわかる！

ニュースでよく聞く、基地、社会的企業、格差・貧困、難民など15のテーマについて、問題のありかや現状を理解できる「時事NOTE」がある。

【特徴その5】 課題にチャレンジ！

裁判員になったつもりで判決を考えたり、議員になったつもりで市の予算を考えたり、各国の代表として模擬国連に参加してみたりする「Challenge」が5テーマ設けられている。教科「公共」で養いたい資質・能力として挙げられている「現実社会の諸課題の解決に向けて、・・・事実を基に多面的・多角的に考察し、・・・合意形成や社会参画を視野に入れながら、・・・議論する力」「国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚」が育まれる仕掛けとなっている。

大判でイラストや写真が多く、一見易しそうに見える教科書であるが、大学入学共通テストにも対応できる知識や思考力・判断力を培う問いかけなどが十分に盛り込まれている。資料の数も、これまでの「現代社会」の教科書に比べて格段に多く、また、QRマークがあるところは関連するサイトや動画の閲覧ができるなど、生徒の興味・関心を伸ばせるようになっている。概念や理論を学ぶ「第1部 公共の扉」に続く「第2部」が、政治の扉、経済の扉、国際の扉の3つから成り、「第3部」に続いているのが構成の特徴である。

生徒たちが、現代の諸課題の追究や解決に向けて、主体的・対話的で深い学びができるよう、テーマや問い、資料の見せ方を工夫した教科書になっているので、是非ご覧ください。